晴れときどき雨

yanagawaeiichi

佐世保ゆき

　これも或る人に聞いた話。その人の言うには・・・・・

車で出発する前に、スパゲッティーを食べ過ぎたのが悪かった。作るときに、自分としてはオリーブ・オイルを少々入れすぎたのである。出発する前から、ほんのちょっといつもとは違ったお腹の調子だった。
ＪＲ肥前白石駅前で妻と運転を交代した。この時はまだ、まあまあの調子だったのである。　こんな時は自分でもわかるくらい口数が少ないものである。

長崎道を出て西九州道へ入ったころから、ちょっとおかしいぞ、と思うようになった。この西九州道には、終点の佐世保まで全くトイレがなかった。　いや、見逃したのかもしれない。だんだんおかしくなってきた。
私はスピードを出し始めた。今までこの道を何回か通ったことがあったが、こんなにスピードを出したことはなかった。

行けども行けどもトイレはない。運転しながら、車を止めて草むらの中へでも飛び込もうと思ったが、ぐっと我慢をしつづけた。妻が冗談を言ったりするが、それどころではない。もう私は返事をすることもできない。
西九州道から一般道へ出る交差点の赤信号の長いこと。青になる前に、よっぽど進んでしまおうかと思ったくらいであった。
ＪＲ佐世保駅のトイレをとりあえず目指す。　道路標識に従って、右へ、左へと曲がった。表示がはっきりしていないところがあって、道を間違えてしまった。　どこをどう行っているのかわからなくなってしまった。我慢が最高潮に達した。
思いはたった一つ。トイレ。
道端の道路工事人に、駅はどちらかと尋ねたら、そっちを曲がって、まっすぐ行ったところにあると教えてくれたが、どれくらいまっすぐに行くのだろう。もうこうなったら行くしかない。
２００メートル位行ったところで、妻が左側に駅を見つけてくれた。
なにはともあれ助かった。

また君に恋してる

　これも或る人に聞いた話。　その人の言うには・・・・・・
父の日が近まってきたので息子に妻が電話していた。「何かプレゼントするなら、お父さんの希望があるから」と。
「最近、ビリー・バンバンと坂本冬美が歌って爆発的にヒットしている＜また君に恋してる＞のCDがほしいんだって」と。
　父の日のずっと前だというのにそのCDはさっそく配送されてきた。それも、晩酌をしながら夕食を食べているときに。
「おお、いい時にきた」
このうれしい曲を聴きながら食べたら、さぞ気持ちがいいだろう。もう気分が盛り上がってきた。
酒で調子がよくなっていたので、CDの全体を見なくて、この曲がどこにあるのかだけを探した。
「あった！」　　「一番最後か！」
２枚入りのCDの一番最後をかけよう。　聴きながら食べたらさぞ気持ちよかろうと、すこしあせっていた。
「どうもおかしいぞ」　　音が出ない。
「おかしい」
何度やっても少しカタカタとCDは回っているが、音が出ない。
「もしやプレーヤーがこわれているのでは」
安物なのですぐこんなことを考えるのである。
「もうひとつのプレーヤーを持ってきてくれ」と妻に頼んだ。　妻も何がなんだかわからず、いそいでほかの一台を持ってきてくれた。
「これならいいだろう」
「何!！　音が出ない」　カタカタと小さな音を立てて回っているだけ。
「これもこわれているのか」　安物しか持っていないので、すぐこういう発想が浮かぶのである。
「いや、まてよ。　これはCDがおかしいに違いない。　録音ミスに違いない。　なんだー、これは」
好きな曲を聴きながら、食べて飲みたい。このことが、知らず知らずに自分を興奮させていたのだろう。
「これはDVDですよ」　妻の一声ですべてが解決した。

そうとわかったら、さっそくDVDをみよう。
「もう、後でいいんじゃない」、と言う妻をむりやり説得して、場所を移動してDVDを見始めた。
「さあ、すばらしい映像と一緒に、あの歌を聞くか」

「最後にはいっているやつだな」
「おお、はじまった。はじまった！　すばらしい。」
「何？　一番だけで終わり？　それも、途中から！」
「息子のやつ、こんなCD送りやがって！」
「俺は、二番まで聴きたいんだ！」
がっくり来ていた自分に、またしても、やや冷静な妻が、
「ちゃんとCDにもはいっていますよ」と言った。　全体を見ないからこんなことになったのである。　馬鹿みたいにあわてていたのである。

「やっとかかった。なんというすばらしい曲！」
この後何度も聴いた。あまりの感激に涙が出てきた。
何を食べていたのだろう。今まで何を食べていたのか忘れてしまっていた。
たぶん、消化が悪かったのだろう。　２時間くらいたって胃が痛くなった。　特に、みぞおちの辺りがパンパンに張って、へそ付近まで痛いのである。
半月ほど前、玄米を煎ったコーヒー風味の飲み物を飲んで、1分経つか経たぬかというとき、突然、猛烈な胃付近の
膨張と痛み－チクチクする激しい痛み－が続いた後、吐き気を催し、生汗が出てきて嘔吐し、その後、時間とともに徐々に腹部の膨満感と痛みが、やっと治まった経験があった。
今度の痛みも似たようなものだったが、あんなに突然、猛烈に襲ってきたものではなく、吐き気もなく、痛みもアレほどひどくはなかったが、なかなかよくならないのである。　ゲップを出せばよくなるだろうと思って出しても、あまりよくならない。
横になって寝はじめたが、今回はチクチクとした痛みが続いて、寝れそうにない。

左肩の痛み、五十肩と言うものを直してもらおうと、福岡市の気功療法の先生のところへ行っている。　会員になっているので、何かあったときはいつでもケイタイで連絡してもよいと言われていた。
時間も夜の11時頃だし、我慢しようかと思ったが、思い切って電話をかけた。
いろいろなツボらしき所に順々にケイタイの画面のところを、軽く当ててゆくのである。　7回目くらいからだんだん痛みが消えていった。　この間、5分から10分だったろうか。　確かによくなった。痛みが消えた。
初めて、気功の遠隔治療というものを経験した。　自分で経験してみて、これはたまたま時間が経ったから良くなったというものではなかった。自分の脳がそうなり切ったというものでもなかった。
気功の効果が確かにあったのである。

それから、２・３ヶ月経った頃であろうか。突然夜の11時半頃腹部中心から左側にかけて、激痛が襲った。

今度は、2・3時間の間に6・7回くらい嘔吐した。あまりの痛さで吐き気を催したのであろう。こうして朝の7時頃まで一睡もせず、その後は穏やかになったのでちょっとの間寝付いたようだった。

その日は日曜日だったので、次の日内科を受信したら、結果は、左側の尿管結石ということだった。
薬を飲み、一週間後の昼、小便中に、カチンという音がして、石が出てきた。便器の中の石を割り箸でつまみ、
勝ち誇ったような気持ちで、半年にわたった戦いは終わった。

ところが５ヶ月後、スパゲッティ・ペペロンチーノの食べた後、３０～４０分して力仕事をした。そうしたらまた再び
胃付近の激痛が来た。　ある本を読んだら、どうもピロリ菌の仕業ではないかと書いてあった。
いま、自分でピロリ菌撲滅をやっている。　半年後がどうなるのか楽しみだ。

わからん人やな

これも或る人に聞いた話。　その人の言うには・・・
８０から９０歳の人は、第二次世界大戦を大東亜戦争とよく言います。これも大東亜戦争時の話。

まずは陸軍から。
おじさんはよう満州の話しばするばってん、九州のどっから出て行って満州さん行ったつね？
久留米からたい。　はじめは久留米やろばってん、どこん港から出て行ったと？　門司からね。　おりげんおやじさんは
門司から出て行って、杭州湾に上陸したげな。
久留米からたい。　汽車で行った。
満州さん行くとに間に海のあろが。　九州と朝鮮の間にトンネルのありばっするごつ。　そりけん、どこん港から行ったつね、ち聞きょるとたい。
そりけん、久留米からたい。　ずーと、どこさん行きょるかわからんやった。朝鮮と満州の国境で汽車から降り、そこでリンゴば13個ぐらい食べたな。そして最後んなって、満州に着いたったい。

おじさんは、海軍やったろ。
やっぱ九州なら佐世保から出て行ったつやろだい。
どっからやい、ようわからんたい。
海軍で、軍艦に乗って出て行くとすんなら、佐世保しかなかろうもん。
そりがようわからんたい。
出発した港ぐらいわかろうもん。
そりがようわからんたい。

年をとってしまったのでボケてきたのか、言うことが理解できない。
後になって、よく聞いてみたところが、こうだった。

陸軍
久留米で汽車に乗らされ、その後は、周りの景色はほとんど見えず、たぶん窓を閉め切っていたのだろう、どこかの港から、汽車に乗ったまま朝鮮に着き、そのまま回りの景色は全く見えず、満州に到着した。
人間じゃなく、荷物扱いだな。　たぶん、船に乗ったという感覚はなかったのでは。
海軍
軍の車に収容され、周りは見えぬまま、どこかの港から東シナ海へ送り出された。

陸軍も海軍も極秘のうちに兵隊を移動させていたようである。
海軍のおじさんは、その後、２・３回船を沈められて、海の上を漂った。
陸軍のおじさんはその後、満州軍の一部が台湾へ移動したとき、満州から台湾へやってきた。
偶然にも、兄弟同士である海軍のおじさんと陸軍のおじさんは、台湾で再会したのである。
陸軍のおじさんは今でも、満州の思い出に浸り、うっとりとなる。